



10月9日区民祭りに参加しました

さわやかな秋空の下、区民祭りが開催されました。東日本大震災の復興を願って「絆広場」が設けられました。テントの中の、震災前と震災後の写真の前では、あまりの、変わりように一様に言葉がなく、ただ一日も早い復興を祈るばかりでした。隣接の被災地復興の物産展では、そんな思いを同じくする人の列が途切れることがありませんでした。

我が生ごみリサイクルも毎年の参加で「生ごみを捨てるなんてもったいない！土に還して花や野菜を育てて楽しみましょう」という呼びかけを続けています。9:00～16:00の間に堆肥作りの実演を3回行い各回とも海外の方も含め、多くの方の参加を頂きました。終了後もたくさんの質問・相談・秋の講習会への参加申し込みなど関心のある方が多くなっていることを実感し嬉しくおもいました。



生ごみ堆肥作り実演の様子



会員の育てた苗をお土産に

- ◇ 自己流で堆肥作りをしているがミズアブが湧いた。
- ◇ バケツに米ぬかと生ごみを入れれば堆肥になるのか。
- ◇ いまから堆肥作りを始めたら、いつ使えるようになるか。
- ◇ 生ごみ堆肥作りはマレーシアでもやっているよ。発泡箱でやってみたい。
- ◇ 庭に生ごみを埋めているが穴を掘るのが大変。発泡箱でやってみたい。

等がおもな質問ですが、おひとりずつお答え、対応させていただきました。

会員の皆様も特別講習会にご参加ください

家庭から出る生ごみを堆肥化することによって、ごみの焼却費とCO₂の発生を削減するとともに、花や野菜を育てて命の循環を進めています。これまで1000余人が講習を受け、堆肥作りを進めています。今回はこれまで実践している人のスキルアップをはかりつつ、新たな手法も講習メニューに加え、親しみやすい堆肥作りを広めるため、「これなら」という方法を特別講習会で紹介します。会員の皆様もどうぞ、ご参加ください。

◇ お知らせ ◇

生ごみ堆肥化特別講習会 2回シリーズ

第1回 1月24日

第2回 2月28日

午後2時～4時

場所 船堀タワーホール3階
産業振興センター

参加費 500円（腐葉土・ボカシ）

10月28日 “おかげさま農場” 訪問

千葉県成田市で、高柳 功さんを中心とした25家族の農家集団（経済主義や化学主義一辺倒の農業から、自然に寄り添った本来の農へと舵を切った、無農薬・無化学肥料・土作りにこだわる農業者グループ）の、4農家の方々の耕作地・堆肥場所を見学させていただきました。

今回は代表者高柳さん（ヒマワリの種・黒ゴマの選別場所）・林さん（大根 人参と堆肥作り②）・多田さん（こかぶ チンゲン菜）・椿さん（人参）の農場等を見学させていただきました。点在する農場に私たちのバスの前を車で先導していただきましたが、和気あいあい チームワークの良いこと“おかげさま”の面目躍如！また「生ごみ堆肥は窒素が多いので堆肥を入れた後しばらく置いてから種をまく」「キアゲハの幼虫は人参が大好きで…」など無農薬 無化学肥料の大変さを改めて感じました

お昼は女性陣手作りのお弁当①です。まさに 身土不二 心のこもったお弁当がとても美味しかったです。声が多数寄せられました。心も身体もほっこり！特に豚汁に入っていた里芋が絶品の味で 早速直売所で買いました 東京で食べても美味しかったです！ご馳走様でした！

皆さんの声によせて

自分たちのためだけでなく、食べる人たちのことを考えて活動されている姿に頭が下がります。作る側の思いを聞くことが出来て体験することが出来て有難うございました。皆さんの思いを代表してくださったようで「同感」と思われる方も多いでしょう。一方



記念写真

“おかげさま農場”

1. 食は命→テーマにしています。
2. 医食同源→健康の源は食にあると考えています。
3. 身土不二→人間の体と住んでいる土地は一体のもので、そこで採れたものを食することが命を大事にすることだと考えます。
4. 自分たちが食べて安心できるものを栽培、生産します。
5. 農業の大切さと命の大切さは等しいと考えます。

農家の方にとって畑は無暗に入って欲しくない場所の筈、まして無農薬での野菜作りの大変さを学んだばかりなのに、畑の茄子を競って採ったのは、お芋ほりの体験で童心に帰りすぎたのか、高柳さんの好意に甘え過ぎたのか、でも皆さんすでに其のことに気付かれた事と思いますし、

楽しかった一日の

体験に水を差すつもりはありません。

皆さんが心に残った言葉として高柳さんの「食べ物は天からの恵み、選んではいけない」をあげられている。それは自然に寄り添って天からの恵み、地からの恵みを形にして下さる方々がいらっしゃるから。

「おかげさま」「ありがとうございます」私たちに楽しさとたくさんのことを気づかせてくれた一日に感謝をして！



「おかげさま農場」バス見学会参加者からいただいたアンケート

おかげさま農場バス見学会のアンケート結果を報告します。見学会参加者 43 名、アンケート提出は 32 名です。未提出者は会員の方が多いと思われます。参加者の 8 割は女性、60 歳以上が 8 割、見学先が適当との回答は 9 割にのぼり、まずまず好評だったと思います。“参加理由は有機農業に興味がある。”と言ったものが多い。感想や意見では、“土作りの大変さを実感した。有機農業等についていろいろ勉強になった。堆肥作りの話をもう少し聞きたかった。新鮮な無農薬野菜の昼食が美味しかった。”等々です。参加理由、感想とも、見学会の趣旨を理解された方が多く、見学会の目的を達成できたと思います。参加された方々のご協力に感謝します。

秋の講習会が終了

2004 年秋に第 1 回の生ごみ堆肥作り講習会を開催して以来、毎年春 2 コース、秋 2 コース（各コース全 3 回）の講習会を続けてきましたがこの秋は 8 年目となりました。また 2010 年からは関心のある人にはとにかく始めていただきたいとの思いから、1 回だけの特別講習会も開催しています。さらには出前講座や区のイベントなどでもミニ講座を行うなど、地道に生ごみ堆肥作りを伝え続けて、これまでの参加人数は 1000 名を超えました。

生ごみの堆肥化はコツをつかめば難しいことではなく、植物を育てる楽しみにも繋がります。生ごみを土に戻し、その他のごみもきっちり分別することができれば、可燃ごみは驚くほど少なくなります。

この講習会では、発泡スチロール箱①やコンポスト容器を使った堆肥作りについて、11 月まで 3 回の講習を通して、生ごみの堆肥化が継続できるように支援していきました。

コミュニティプラザ一之江の講習会には、日野市から『ひの・まちの生ごみを考える会』のメンバー 3 名が講習会を見学、終了後交流会を行い情報交換しました。10 月から竹パウダーを使った生ごみ堆肥作り講習会を始める予定とのこと、交流会でも竹パウダーについて質問が集中しました。

『ひの・まちの生ごみを考える会』ではコミュニティガーデンで生ごみを堆肥化して野菜を作り、収穫した野菜を使って芋煮会や、味噌作り豆腐作りなども行い、都市部では失われつつある農地としての緑地保全や、子どもたちの環境教育、異世代の交流の場にもなっているとお話しました。生ごみリサイクルを勧めている団体にとってコミュニティガーデンは目標の一つであり、私たちにとっても交流会は大きな刺激になりました。



11月10日日野市の「せせらぎ農園」へ行ってきました



せせらぎ農園（日野市）は、「まちの生ごみ活かし隊」という市民のメンバーが活動、自然が残っていて、それを守っていかようとしている所です。広さ 650 坪の畑で、週二回軽トラックで約 200 世帯の生ごみを戸別回収②して耕し③、ブルーシートとネット



（カラスよけ）を掛けて、生ごみを土ごと発酵させています。生ごみリサイクルで土作り、生ごみリサイクルで元気野菜作りをしています。

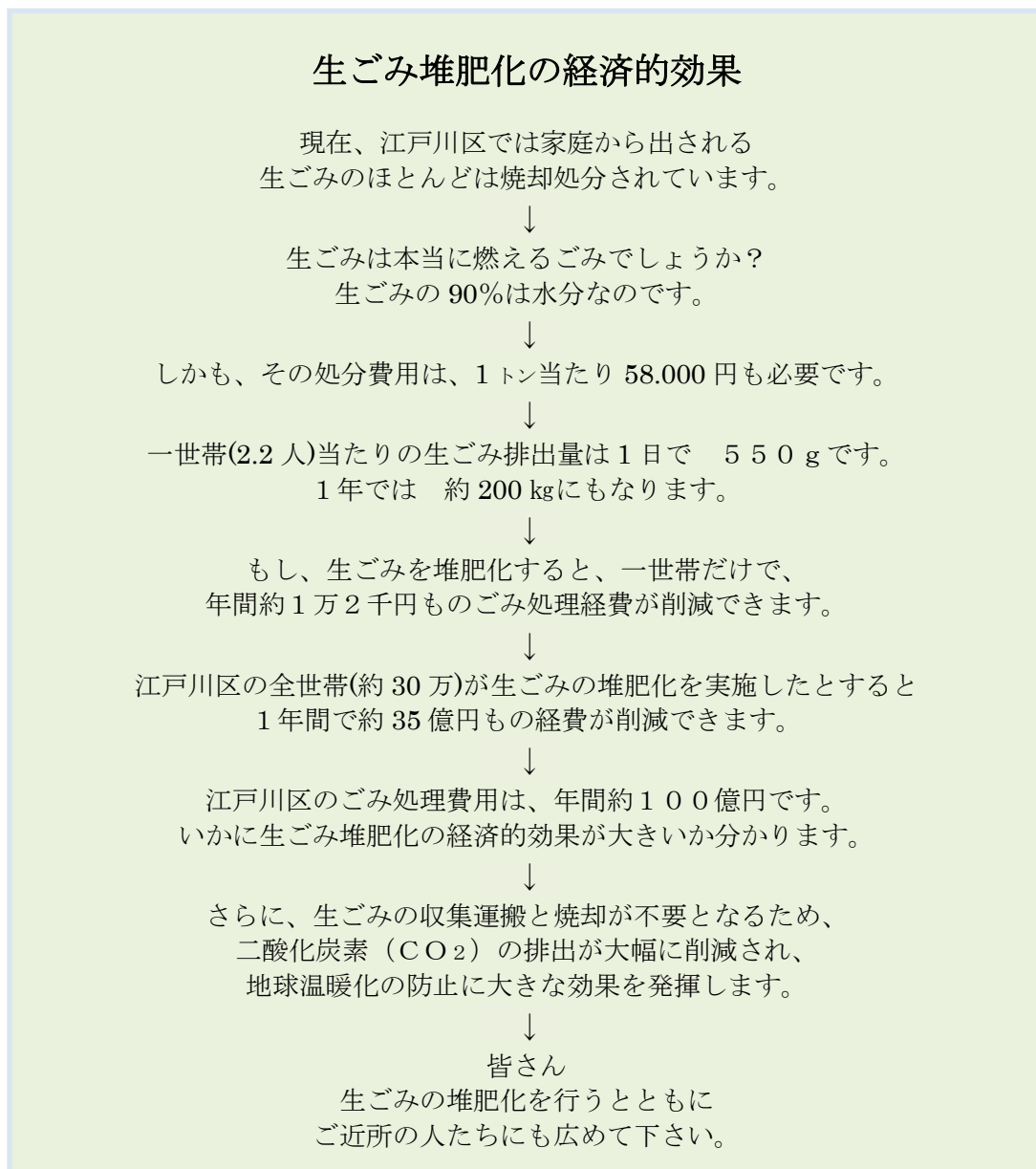
せせらぎ農園は、近隣の小学校や児童館・幼稚園の学習の場として解放、命の循環が目で見える手作りのコミュニティガーデン④（身近な空き地や緑地を市民の手で美しい畑に変え、安全で緑豊かなまちを創造していく協働の庭づくり活動）です。また、手作りの簡単な小屋やベンチ⑤もあり、人が集まっておしゃべりができる素敵なみんなの居場所でした。

このように切り開いていくには、行政を動かすそれなりのアプローチ必要と、行政を交えての公式発表会や討論会などをも提案し、また、実現に向けてより具体的な方法といった話し合いを定期的に行っている。市民の団体『ひの・まちの生ごみを考える会』が運営している場所でした。



生ごみ堆肥化の経済的効果の試算

生ごみを堆肥化することによる経済効果の試算を行った結果、次のような効果があります。
〔江戸川区公表資料からごみ排出量（平成22年度）と廃棄物の処理単価（平成21年度）を使用〕



一年をふり返って

当クラブは「生ごみ」をもじって「いきごみクラブ」を略称＝愛称としていますが、その名にふさわしく「意気込み」のあふれる方が多く、元気に活動をしています。今年2011年は、3.11 東日本大震災の衝撃でいろんなことが大きく変わりましたが、こんな時こそ輸入物資や大量のエネルギーに頼らない生活を考え、生ごみ堆肥による野菜作りが「地産地消＝地域での物質循環」にぴったりであるとして活動してきました。

春・秋の生ごみ堆肥化講習会や特別講習会には大勢の区民に参加いただきました。講習で教える側の私たちも内部の勉強会や見学会を通して学習を積み重ね、講習会参加の皆さんが堆肥作りを楽しく続けられ、周りの方々にも気軽に勧められるよう努力してきました。2月には、完全無農薬でエネルギーも自給を目指す農場として、マスコミ等でも有名な埼玉県小川町の霜里農場を見学、10月には千葉県成田市の有機栽培農家グループ「おかげさま農場」を見学して、たくさんのことを学びました。また、江東区のグループとの交流から「森の仕組み」で生ごみを堆肥化する方法を教わり、東京23区とことん討論会で知り合った日野市のグループのコミュニティガーデンを見学し、生ごみの堆肥化から広がる地域の人の和を学びました。いろんな出会いがあって、いきごみクラブも日々進化しています。

2006年からクラブ内でもともに学び楽しんできた布ぞうり作りからは、えどがわエコセンター循環型社会づくり委員会が進めた「布ぞうり・すだれ作り講習会」に参加した人たちとともに「江戸ものづくりサロン」が発足、いきごみクラブの姉妹団体として布ぞうり作り講習会などの活動をしてゆくことになりました。
(代表世話人 佐藤正兵)

3. 11. 震災以来「絆」の重要性が言われています。「いきごみ」皆さんの絆を大切に！いきごみ通信のご協力に感謝します。